

発行所

公益社団法人
全日本仏教婦人連盟
〒151-0051 東京都渋谷区
千駄ヶ谷4-5-10-205
TEL 03-5772-0677
FAX 03-6434-0184
URL http://jbwf.jp

沙羅の樹



No.23

2026年春号
4月10日発行

平成16年度より「花の種運動」として花の種を配布してまいりました。平成26年度からは「子供たちの未来のために」と環境活動に取り組み、「命を大切にしよう ひと粒の種」リーフレットを作成し、水をテーマに「水は宝物」、海洋プラスチックをテーマに「海はひとつ」と作成してまいりました。



花の種 *Renewal* 新リーフレットが 出来ました!

た。身近な問題である「食品ロス」が地球規模の環境に大きく影響すると当連盟の窪川かおる会員に全佛婦140号、141号で説明していただき、あらためて生きていく上でも地球環境の上でも「食」は避けては通れないテーマだと痛感致しました。

私たちは年間464万トンもの食料を廃棄しています。その一方で、貧困や紛争、災害の中で空腹に耐える人々が世界中にいるのです。食べるしあわせは当たり前ではないのだと思います。食べるときにその食べ物がどのような行程を経て手元に来たのか、想いを馳せ、大切にいただく。そうした気づきを得るきっかけになれば、私たちにとってこの上ない喜びです。

イラストレーター
橋本豊さんが
私たち人間と食べ物との
つながりと縁、
そして感謝を
素晴らしいイラストで
表現してくださいました



橋本 豊
はしもと ゆたか

1975年埼玉県所沢市生まれ。日本大学芸術学部美術学科卒業後、広告デザイナーを経てイラストレーターに。趣味は修理、帽子、いつまで経っても弾けないウクレレなど。

Instagram note



私たちの活動報告

各事業にご賛助及びご協力をいただき、ありがとうございます。

3月末日現在（順不同・敬称略）

▼新会員紹介

【正会員】波岡恵 アルバータラビエ
奥恵美 永野麻佐子

▼賛助金にご協力の方々

上品蓮台寺 深大寺 満願寺
(公財) 国際仏教興隆協会

▼ご芳志を頂きましたの方々

念法眞教 全日本仏教尼僧法団
天王寺 本多端子 花岡眞理子
海老塚るり子 米田陽子
日比野郁皓 大塚哲子 小峰みな子

▼社会福祉基金にご協力の方々

山本康子 山田麻記子 日吉観
桶屋良法 大橋百合子 遠賀令子
本多端子 本多裕美 梨本三千代
米田陽子 小峰みな子 本願寺
修正会出席者

▼花の種運動にご協力の方々

心経寺 善照寺 甲山寺 本多端子
松井百合子 河原時子 鈴木トヨ子
長尾節子 佐々木公子 桶屋良法
湯浅正江 遠賀令子

▼写経運動にご協力の方々

末廣久美 米田陽子 山口美和
星野和美 諸角美智 村上和之
辻寿津子 本多端子 遠賀令子
桶屋良法 湯浅正江 高崎悦子
日比野郁皓 末廣綾 山口偉理子
海老名初江 永野麻佐子 塩入敬子
枝木美香 伊藤かおり 奥恵美
アルバータラビエ 小峰みな子

▼誌代にご協力の方

遠賀令子

発行人 本多端子
編集人 桶屋良法 日比野郁皓
山口偉理子 末廣綾
デザイン 合同社まに

1月

- 1日 「全佛婦」142号発行
- 19日 (公社)日本仏教保育協会新年懇親会 (東京プリンスホテル)
- 21日 新年修正会 (Q.E.D.クラブ)
- 28日 念法眞教一宮良範教務総長来局 (千駄ヶ谷)
- 29日 (公財)全日本仏教会新年懇親会 (ウェスティンホテル都)

2月

- 9日 (公財)全日本仏教会第8回総務財政審議会 (明照会館)
- 10日 第5回運営委員会 (天王寺)
- 第136回文化講座 (")
- 25日~27日 花の種発送作業 (本山東本願寺)

3月

- 11日 (公財)全日本仏教会第50回理事会 (zoom 会議)
- 12日 第39回理事会 (代々木会議室)
- 16日 第59回仏教伝道文化賞贈呈式 (仏教伝道センタービル)
- 26日 (公財)全日本仏教会第13回仏教団体代議員会議 (zoom 会議)
- 27日 天台宗東叡山寛永寺訪問 (上野)

ご冥福をお祈り 申し上げます

- 令和7年11月16日
小川イサ子姉 (会員)
- 令和8年1月30日
田代弘興師 (賛助会員)
- 令和8年3月10日
菅野日彰師 (賛助会員)

今後の予定

☑ 豊島区仏教会花まつり共催

日時 4月3日(金)
会場 雑司ヶ谷鬼子母神堂

☑ 第14回総会

日時 6月9日(火)
会場 天台宗東叡山寛永寺
東京都台東区上野桜木 1-14-11

☑ 第137回文化講座 「京都仏教セミナー」

日時 5月28日(木)
天龍寺、清涼寺、大覚寺の参詣
福田美術館鑑賞等、盛りだくさんの
企画となっております。

➡ 順次ご案内をいたします。





第136回文化講座

写経会

【谷中天王寺】

2月10日(火)、谷中天王寺にて第136回文化講座が開講されました。天王寺住職山口興順師お導師のもと、「写経のおつとめ」をお唱えして

心を落ち着かせ、一文字一文字に願いを込めながら集中して写経をいたしました。山口師は「三宝」は仏教で最も重要とされる三つの宝、仏・法・僧を指す言葉であり、その中の「僧」には僧侶だけでなく在家の私たちも写経を実践することにより入る。伝教大師最澄さまの自利利他を実践するにおいては「僧俗一貫」して菩薩なりという言葉

を説かれました。身の引き締まる心持で写経することが出来ました。

1月21日(水)

新年修正会

【中目黒 Q.E.D.クラブ】



1月21日(水)、東京都中目黒のQ.E.D.クラブに於いて新年修正会が開催されました。Q.E.D.クラブは元ハンガリー大使公邸で広大な敷地とヨーロッパの洋館を思わせる建物、館内はエミール・ガレや千住博などの絵画や調度品が並びまるで美術館のようで、豊かな緑に包まれ、都会に在ることを忘れるほどの会場でした。

初めに全日本仏教尼僧法団・笹川悦導理事長をお導師に修正会法要が厳修されました。法要後、笹川理事長は、千支の丙午にちなみ「馬」の話題に触れられ、神社仏閣に馬を奉納する慣習が転じて「絵馬」が生まれたことや、お釈迦様が人間を4種の馬にたとえた教えをお話いただきました。この4種の馬のエピソードは、次のよう

1 頭目の馬は鞭を見ただけで察し、乗り手の意のままに動く。
2 頭目は鞭が毛に触れると察し、乗り手の意のままに動く。
3 頭目は鞭が肉(体)に触れると察し、乗り手の意のままに動く。
4 頭目は鞭が骨にまで響いて察し、乗り手の意のままに動く。
1 頭目の馬は次のような人を指します。
別の村の人の病氣や苦しみに、また死を聞いてそれらを察し驚き、どうしたらその苦しみを解決できるかを考え動き出す人。
2 頭目の馬は次のような人を指します。
同じ村の人の病氣や苦しみに、また死を聞いてそれらを察し驚き、どうしたらその苦しみを解決できるかを考え動き出す人。
3 頭目の馬は次のような人を指します。
自分と親しい人の病氣や苦しみに、また死を聞いてそれらを察し驚き、どうしたらその苦しみを解決できるかを考え動き出す人。

4 頭目の馬は次のような人を指します。
自分の身に起きた病氣や苦しみに、また死の際に接しそれらを察し驚き、どうしたらその苦しみを解決できるかを考え動き出す人。
このお話は、4種の馬の優劣をつけるのではなく、其々の馬が鞭の痛みに気づいたことに意味があり「気づき」が大切なのだと教えていることです。「しっかりと気づきを持って進んでいけるよう、皆様も一緒にご精進をお願いします。」と締めくくられました。続いて、東伏見具子会長は、自坊での初護摩について、以前は家内安全や身体健康のご祈願が多かったが、近年では「世界平和」の文言が増え「戦争というものが他所の国の出先事ではなくより身近に感じている方が多くなってきた」と思っています。「と憂慮されました。当たり前に享受する日常の「幸せ」の有難さに感謝しつつ、私共仏教婦人連盟が掲げている「子どもたちの

未来のために」の活動を推進するため「元気に支え合いながら、仏婦のために協力をお願いいたします。」と呼びかけられました。本多端子理事長からは、東伏見会長が来年度全日本仏教会の副会長の就任することの報告と、全国青少年教化協議会と日本仏教保育協会と当会の三団体で支援する、東日本大震災、能登半島地震の被災地の子どもたちやウクライナから避難されている学生への「あおぞら奨学金」への協力を求められました。第2部は、加用稔子副会長の乾杯のご発声で和やかな雰囲気の中、おいしいお食事と、有志の方々の提供により楽しい福引が行われ会員相互の親睦が和気あいあいのうちに深められました。また、新たに会員になられた新会員九名がご紹介された仏婦の輪も少しずつ広がっていることを感じたとでした。(海老塚るり子)

第39回 理事会報告



花の種 /

3万袋を発送しました!

今年も花の種発送を浅草東本願寺様の会館をお借りして、2月25～27日の3日間で作業をいたしました。

5種類の種3万袋を各方面にお届けし、早速に御礼の手紙やFAXが届いております。お彼岸や花まつりにお使いいただき新しいリーフレットへの感想や花が咲いた写真など事務局にお寄せください。お待ちしております。

会員有志のお手伝いに感謝申し上げます。



3月12日(木)、代々木会議室にて予算理事会が開催されました。7名の理事、2名の監事出席の下、2026(令和8)年度事業計画案及び収支予算案について審議、また、第14回総会召集の審議、新会員入会の報告があり議案全てが承認されました。監事の木村会計士より公益認定について再確認の説明と補足や本多理事長から社会福祉事業の環境問題(花の種運動)新たにリーフレットを作成「食の大切さ」をわかりや

すく、あおぞら奨学金として被災された高校生に1ヶ月1万円(年間12万円)の支援、インド光明施療院維持のための写経運動等について改めて説明がありました。なお、機関誌「全佛婦」、ニュースレター「沙羅の樹」には活動報告等を掲載しておりますので広報の一端として有効に活用していただきたいと、そして、今年度も会員・賛助会員各位、各団体様のご支援ご協力のもと事業を進めてまいりたいと話されました。